

2016年1月吉日

各 位

公益財団法人 笹川平和財団
海洋政策研究所

国際シンポジウム「海洋における温暖化と酸性化～現状と今後の対応策～」のご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

人間社会が排出する温室効果ガスは、地球温暖化をもたらすとともに、海水中の二酸化炭素濃度上昇を通じて海洋酸性化を進行させます。海洋における温暖化と酸性化は、2012年の国連持続可能な開発会議（リオ+20）の成果文書や2015年9月の国連持続可能な開発目標（SDGs）など取り上げられている喫緊の課題です。しかし、我が国での対応は必ずしも十分ではありません。

そこで、これらの重要課題について、国内外の状況を共有し、我が国で取り組むべき検討課題や対応策について議論するため、世界でこの分野の議論をリードする著名な研究者を招いて、国際シンポジウム「海洋における温暖化と酸性化～現状と今後の対応策～」を開催することと致しました。本シンポジウムが、地球規模で進行する海洋環境の変化に対する行動の第一歩になりましたら幸いです。

つきましては、皆様方の積極的なご参加を賜りたく、下記のとおりご案内申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時： 2016年2月17日（水）13:00～17:00（受付開始12:30）
2. 場 所： 東京都港区虎ノ門1-15-16 笹川平和財団ビル 11階国際会議場
3. 参加費： シンポジウム・意見交換会ともに無料
4. 言 語： 日英同時通訳
5. プログラム：
 - 13:00-13:10 開会挨拶
 - 13:10-13:50 基調講演「国際的な海洋政策の潮流と温暖化・酸性化」
Biliana Cicin-Sain（米国デラウェア大学海洋政策研究センター 所長）
 - 13:50-14:30 基調講演「海洋酸性化の研究動向と課題」
Jean-Pierre Gattuso（仏国国立科学センター 研究ディレクター）
 - 14:30-14:45 休憩
 - 14:45-16:55 パネルディスカッション「温暖化と酸性化の検討課題と対応策」
 - 「我が国の現状と課題（総論）」 白山 義久（海洋研究開発機構 理事）
 - 「水産資源への影響と課題」 宮原 正典（水産総合研究センター 理事長）
 - 「社会影響と情報発信」 井田 徹治（共同通信社 編集・論説委員）
 - 「予測と情報基盤の必要性」 山形 俊男（海洋研究開発機構 アプリケーションラボ所長）
 - 「総合討議～検討課題と対応策～」
白山 義久、宮原 正典、井田 徹治、山形 俊男、Biliana Cicin-Sain、Jean-Pierre Gattuso（敬称略）
 - 16:55-17:00 閉会
 - 17:15～ 意見交換会

以 上

お問い合わせ先 公益財団法人 笹川平和財団 海洋政策研究所
セミナーお申し込み専用ホームページ、メール、または Fax 03-5157-5230

海外からの講演者：



Biliana Cicin-Sain 博士

米国デラウェア大学海洋政策研究センター 所長
グローバル・オーシャン・フォーラム (GOF) 代表

専門は政治学、カリフォルニア大学ロサンゼルス校にて博士号取得、米国海洋大気局 (NOAA) 等を経て現職。

2001 年に世界の海洋関係者が集う GOF を中心となって設立。2012 年の国連持続可能な開発会議 (リオ+20) や 2015 年の気候変動枠組条約第 21 回締約国会議 (COP21) など大きな国際会議でサイドイベント「Oceans Day」を成功に導くなど、GOF 代表として世界の海洋政策を牽引している。著書に「Integrated Coastal and Ocean Management」(1998 年)、「The Future of U.S. Ocean Policy」などがある。



Jean-Pierre Gattuso 博士

仏国国立科学センター 上級研究ディレクター

専門は海洋生物学、1987 年仏国エクスマルセーユ第 2 大学にて博士号取得、モナコ科学センター・グループリーダ等を経て現職。

2012 年に終了した欧州の海洋酸性化プロジェクト EPOCA の科学コーディネータ、2015 年に仏国海洋酸性化・生物多様性プログラムのディレクターや UNESCO 海洋・気候プラットフォーム科学委員会委員をつとめる。著書に「Ocean Acidification」(2011 年、編集者) などがある。2015 年に気候変動による海洋への影響予測を記したサイエンス誌の論文を執筆するなど、海洋における温暖化・酸性化の科学研究のリーダー。